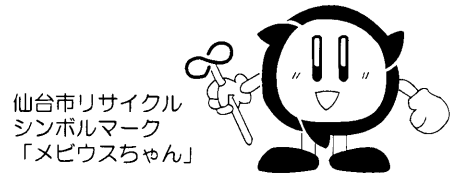


# 仙台メビウス通信



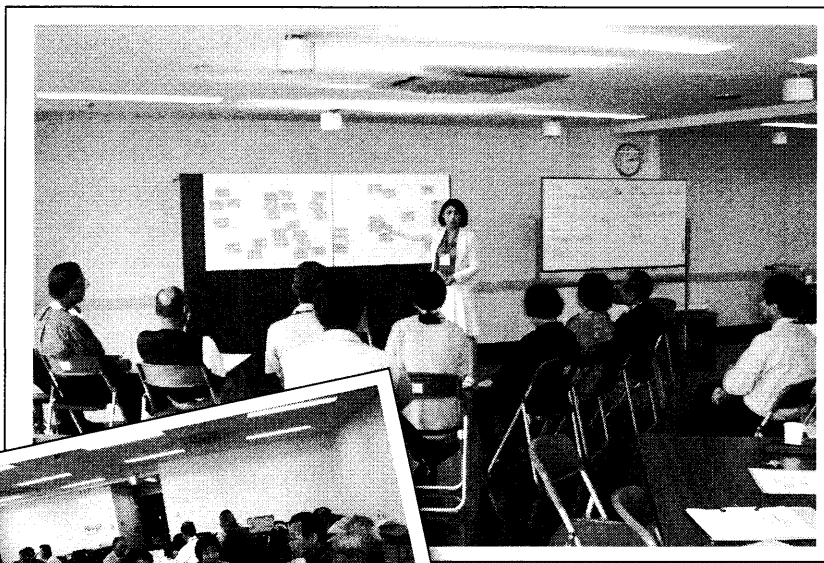
● 編集・発行 仙台市環境局廃棄物管理課  
● 電話 022-214-8227

## あなたとわたしの声をつなぐクリーン仙台推進員のコミュニケーション情報誌

グループ学習会「やってみよう編」	1P
平成21年度グループ学習会～共通最終日～「実践から学びあうセッション」	2P～4P
グループ学習会「初めの一步編」/メビウスちゃんの豆知識/環境事業所主催研修会	5P
仙台市環境局からのお知らせ/「雑がみ集めて勝利をつかめ!」	6P

### グループ学習会「やってみよう編」が始まりました。

五月二十一日から、クリーン仙台推進員対象のグループ学習会「やってみよう編」が始まりました。「やってみよう編」は、今年度から新設されたもので、六カ月かけて計六回、



地域における課題解決のための取り組み方法を検討しながら学習していくものです。

受講者は、金曜コース十一人、火曜コース二十人の計三十一人です。推進員になって十年以上というベテランから、まだまだ経験が浅いけれども、いろいろ勉強していきたいという新人までさまざま。

初日の研修会では、現在問題になっている解決すべき課題や、取り組むべき課題についての話し合いを行いました。

六月に入り二日目の研修会では、それぞれ、グループで、何のテーマについて取り組んでいくかを決めました。

受講者が取り組んだ結果については、後日、通信で報告していきたいと思えます。

#### 「取り組むテーマ」

- ・火曜日コース
- 「紙分別の促進のために」
- 「ごみの正しい出し方の周知」
- 「集積所設置の問題解決」
- 「ペットボトルの出し方改善」
- ・金曜コース
- 「集積所の鳥獣対策」
- 「紙分別の促進のために」

活動報告

平成二十一年度グループレープ学習会〜共通最終日〜  
「実践から学びあうセッション」を開催しました。

三月十日、平成二十一年度グループレープ学習会の最終日となる活動報告の会を開催しました。対象者は、基礎編・応用編の受講者全員です。会場となった市役所八階ホールには、百人を超える参加者が集まりました。

当日は、応用編に参加した五人の推進員からの活動報告をもらいました。また会場の壁には、町内会で実際に使っている表示物の展示や、推進員の有志で結成された「ペットボトルラベルがし調査実行委員会」の展示など盛りだくさん。今回は、その中から、五つの町内会の活動報告の一部をご紹介します。

「手書きポスターの活用と仲間づくり」

畑中南町内会

佐藤勝次さん

町内の困りごとは「排出曜日を守らないこと」「カラスのいたずら」「不法投棄」そして、「仲間不足」でした。

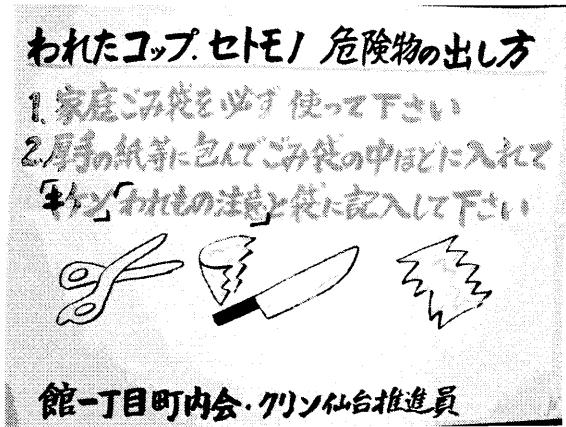
排出曜日を守ってもらうために、イラストが得意な息子に協力してもらい、集積所に手書きのオリジナルポスターを掲示。また、カラス対策のため、老朽化した集積所を、町内のみんなで資料を持ち寄って改修しました。不法投棄防止のためには、



犬の散歩時に、「キンジョパトロール」(歩くボランティア活動。仙台市市民局所管事業)と兼ねて巡回しています。さらに一緒に活動する仲間を増やすため、地域で活動できるボランティアのリストを作り、回覧板で参加してくれる方を公募しま



した。自分の興味のあることから始めてもらえばと思ったからです。その結果、新しい仲間ができました。今後は、配付された「活動事例集」を参考に、自分の地域でできることに、一つずつ取り組んでいきたいと思



「ポスターはピンポイントで。町内会報も活用」  
館一丁目町内会

渡辺美智子さん

私の町内会の推進員は二人。クリーンメイトは、町内会三役と衛生部員、衛生部長経験者など計十四人となっています。

ご町内の方々は、環境に関する関心も高く、大きな問題があるわけではないのですが、たまたま、ルールを守らないごみが出されることがあるのが悩みでした。

そのための取り組みとしては、ピンポイントでの絞りを、小まめにポスターを貼ることです。

例えば収集が終わった後にごみが出されたり、瀬戸物やコップなどが缶・びんの日に出されたりしたので、その都度、該当のごみ集積所に、正しい出し方をお知らせするポスターを掲示しました。

ほかに、町内会報に環境に関する特集を組んでいただいたりしています。また春には、町内会のお祭り会場に「環境コーナー」を設置してみようかと考えています。

なお泉ビレッジ館連合町内会では、各町内の衛生担当者や推進員が集まって話し合いを持ったり、環境に関するワークショップや、市の環境施設を見学する会を開催したりしています。また、連合町内会のホームページに環境に関する取り組みについて掲載しています。

**成功の秘訣は・・・**

- 指導するのではなく、一緒に考え、話し合うスタンス。
- ツンとされてもあきらめず、やさしく声掛け
- 「うちの子」「自分の若い頃」のことを思い出して接する姿勢

「指導ではなく、一緒に学ぶ姿勢で」

向陽台二丁目町内会

沼田六郎さん

地域の問題点は、分別の仕方が分からなかったり、時間外や町外からのごみ出しがあること、夜間にごみが出されていることにより放火される心配があることなどでした。

そこで取り組んだのは、違反ごみをごみ集積所のボックスから出して、なぜ収集されなかつ

たのか理由を書いたメモを取り残しの袋に付けておくことです。その結果、心ある一人は持ち帰りをしてくれますし、うっかり間違う人はいても、ごみ集積所は、ほとんどきれいになりました。

放火対策としては、集積所の扉に施錠したり、ひもで結んで、時間外にごみを出せないようにしました。これにより夜間のごみ出しがなくなり、放火の心配もなくなりました。

ごみの問題はともすると指導という立場になりがちですが、集積所で出会った人に気軽に声をかけ、分別の分からないものは一緒に考えようというスタンスで行っています。

成功の秘訣は、なんといっても「責めない」こと。ツンとされてもあきらめず、やさしく声かけすることで、よりよいまちづくりに貢献していきたいと思えます。

## 「カラス対策と掲示台の作製」

五輪町内会 山形和乎さん

町内の困りごとは、家庭ごみの指定袋がカラスにつつかれ、中身が散乱していることでした。

我が町内会は、道路幅が狭いため、ごみ集積所としてちゃんとした施設を持つことができて



↓ 掲示ボードを壁に固定しなくても良いように、木材とブロックを活用して掲示台を作製。移動も可能な掲示台。

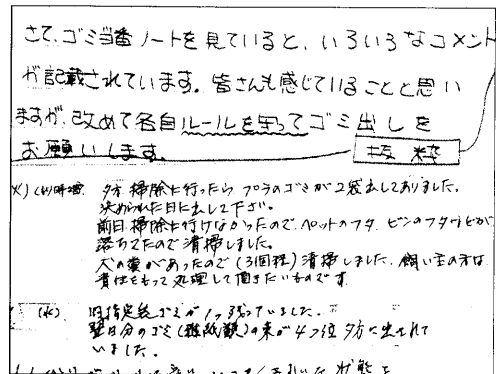
↑ 指定袋をネットにはさむように設置した、簡易「ハンサムネット」

いません。そこで、「ハンサムネット」を導入しました。つまり、ネットをハンモックのようにして、指定袋をはさむ方式です。不思議なもので、「ハンサムネット」の導入時には、あえて、使い方を説明しませんでした。が、十カ月で使い方が普及しました。

次に取り組んだのが「掲示台」の作製です。家庭ごみ等有料化導入時に仙台市から配付された掲示ボードを有効活用するためちよつとした工夫を施しました。作製した掲示台のボードには、手作りポスターや季節の写真などを掲示しています。

ほかにも町内の有志の方がカラスよけに、CDやカラスのオブジェを取り付けてくれました。これらのことにより、カラスの害はなくなり、きれいなごみ集積所になりました。

今後は、ペットボトルの出し方向上などに絞って、活動をしていきたいと考えています。



↑ 回覧チラシから抜粋(住吉台東四丁目町内会)

## 「『気付きノート』で

情報共有」

住吉台東四丁目町内会

大澤善明さん

地域の悩み事は、とにかく「ごみ出しルール」が守られていなかったということ。せつかくごみ集積所が整備されているのに、その中が汚い状態で、分別も徹底されていませんでした。また、推進員の存在がちゃんと認知されていませんでした。

当町内会は、共稼ぎが多く、なかなか、会合を持って情報を伝達するのは難しいのが現状で

す。そこで思いついたのが「気付きノート」の活用でした。

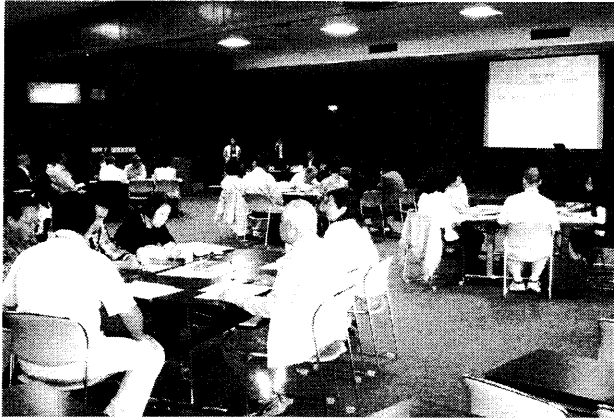
ごみ集積所の清掃当番は、一週間ずつ交代で行っていました。そこで、当番が、掃除の記録と気付いたことを記入するノートをつくって持ち回りすることで、それぞれの集積所毎に情報共有を図りました。

ノートには、気付いたこと、意見などが記入され、徐々に、ごみ集積所がきれいになっていきました。

また、気付きノートの抜粋を町内会報に掲載して、町内でも情報を共有することにしたのです。

推進員の存在をアピールするために、町内会回覧板を頻繁に利用して、推進員名でお知らせを流したり、町内会総会で、推進員としての活動状況を報告。その結果、町内に「推進員」の存在、その役割などを分かってもらえることができました。





**グループ学習会「初めの一步編」が始まりました。**

六月八日から、クリーン仙台推進員対象の平成二十二年度グループ学習会「初めの一步編」が始まりました。「初めの一步編」は、昨年度までの「基礎編」の一日目を基本として、二日間コースで構成されるものです。二日間の研修を通して、推

進員としての「初めの一步」の足がかりとしてもらうことを目的とした研修会で、受講者は五十八人です。

初日は、せんだい・みやぎNPOセンター代表理事の加藤哲夫さんを講師に迎え、推進員活動のコツや、行政との協働のあり方などの講義の後、グループ毎に、地域での困りごとや質問したいことなどを、ラベルに書いて紙に貼り出しながら、意見交換を行いました。

二日目は、先輩推進員から、地域における活動の報告をもらった後、「クリーン仙台推進員としてできること」をテーマに、フリートーク。

参加者同士が刺激しあい、一人ひとりが、新しい発見ができた二日間となりました。



**環境事業所主催研修会を開催しています。**

推進員・メイト向け別体験研修会が、区毎に環境事業所主催で開催されています。第一回目となった青葉区別体験研修会には、百二十人の推進員が参加。皆さん真剣に、間違いやすいものの分別の仕方について学んでいました。

**メビウスちゃんの豆知識**



Q 宛名シールが付いていると

紙としてリサイクルできないってホント？

A 紙はリサイクルするとき、水に溶します。宛名シールやインデックス用紙などについている「のり」は、粘着成分と一緒に溶け出してしまうため、機械のあちこちに付着して、故障の原因となります。また、溶かしてほぐされた紙の繊維を再び乾かして再生紙を作るとき、粘着成分が含まれていると、紙がよじれてしまうんですよ。きれいな再生紙を作るために、「のり」が付いている部分は、ちゃんと取り除いて出してくださいね。紙に付いている「シール」や「セロテープ」、「ガムテープ」なども取り外して出してください！

